

山口議員 9 月議会で 7.24 集中豪雨の被害対策 や 学校給食のアレルギー-対応などの一般質問を行いました！

福岡市議会の 9 月定例会は、9 月 10 日から 18 日まで審議されました。今回の議会では先の水害に対する質問が多く出されました。中でも山口議員は東区西部地域の多々良川水系の被害状況を糺し、須恵川の未整備で甚大な被害が発生したと指摘。松田・原田・多の津・多々良地区の改善を要求しました。



今回 被害がひどかった須恵川と
いまだ積まれたままの土のう

九州北部集中豪雨・被害状況 H21/7/24

時間最大雨量 (116mm) 3 日間の総雨量 (517mm)
福岡市全体 床上浸水 250 世帯 床下浸水 784 世帯
(東区内) 床上浸水 52 世帯 床下浸水 280 世帯
被害地域・筈松 1 丁目、松田 3 丁目、原田 1・2・4 丁目
(東区) 多の津 1・5 丁目
※須恵川は堤防より約 20cm の高さで氾濫

一般質問に立った山口議員は次の 3 点について市の姿勢を質しました。

- ① 7・24 九州北部集中豪雨被害における東区西部地域の状況について
- ② 学校給食における食物アレルギー対応食の提供について
- ③ 水道事業の収支計画と節水について



アレルギー生徒の食器には学校名
と生徒名が記入されています

①では、土のうの今後の整備方針を示す。また県との協議をしっかりと行う。避難所も地域住民の要望を十分に尊重しながら安全性利便性のある場所を選ぶ。
②は、今後の給食センター建て替えに際し、アレルギー対応食もできるように検討整備するとの教育長・市長答弁がありました。
③水道料金を今後 10 年間は、値上げしないで済む見通しで、節水キャップも学校の実験で費用が安くなる実証がなされたので今年度 10 校に設置し、計 13 校になる。他の公共施設でも節水に取り組む、との回答がありました。
(2 面へ続く)

山口議員9月議会の発言要旨

東区松田に住んでいる私の家の前の市道は7月24日の午後8時ごろには須恵川の氾濫により約70cmの深さまで達し、私の腰が浸かるまで増水しました。(中略) 地域住民からは過去10年の間に何回も浸かっているのに、県も市も対策が不十分じゃないかとお叱りを受けています。須恵川は堤防より20cmの高さで氾濫しています。私もこのまま何もしなかったらこれからもこうした被害が川の両岸である津屋や原田・松田の地域は、近い将来また起きると思っています。多々良川流域について、市としてはどうするつもりかご所見をお伺いします。次に避難所についてです。今回、多々良公民館が避難所になりませんでした。市内では他にも公民館が避難所として機能しなかったところがありましたでしょうか、お尋ねいたします。(中略) 市民の生命・財産を守るのが、市役所の使命です。河川の整備について、県の土木事務所は、須恵川の河川整備についてお金に余裕がなくて廻せないなどといって、これまで10年もほったらかされています。また水害の被害が心配でなりません。本当に情けない話です。中途半端な対処だったら被害を蒙った住民はもう許さない話です。最高責任者の吉田市長に今後の河川整備を含め水害の対処方についてご所見をお伺い致します。

次にアレルギー対応食についてお伺いいたします。食育として学校給食が担っている役割は本当に大事です。アレルギーがあるからといって弁当を持参させるだけで解決してよいのでしょうか。仙台市の例を紹介しましたように、また東京区部でも皆で知恵を出し合いながら代替食にも取り組んでいます。福岡市の子供たちが健やかに成長していくために吉田市長、本市もアレルギー対策に真剣に取り組まませんか、ご所見をお伺い致します。

詳しい質問の内容は、山口つよしホームページや福岡市議会のホームページでご覧いただけます。

今回は経済対策を中心に189億円余を追加補正しました。またアイランドシティーに新築移転する、こども病院の建設に際しPFI方式(民間の資金と手法を活用)を採用し2014年の3月の開院を目指します。その他グリーンニューディール基金の創設(民間事業者の省エネ改修等に対する助成)2億円やアイランドシティーの埋め立て議案など38議案を可決成立させました。その他、公明党福岡市議団の議員より

- ・ 新型インフルエンザ対策
- ・ 博多駅筑紫口のバス・タクシーの待機場所
- ・ 校庭の芝生化を促進
- ・ 長期間未着手の都市計画道路
- ・ 旧国鉄の美野島陸橋の環境整備
- ・ バス路線廃止など生活交通施策などの質問がありました。



仙台市 新野村給食センターを訪問

山口議員の質問が一般誌に掲載

今回、学校給食のアレルギー対応食についての山口議員の質問でわかった、アレルギー児童生徒数の公表についての報道が、9/15の読売新聞に掲載されました。



卵や乳製品
アレルギー児童生徒3172人
福岡市02年04年度に比べ大幅増

福岡市教委は14日、卵や市立中の生徒は1020人、副都庁委員(公明)の質問に乳製品などアレルギーが04年度比3172人増とい、山田裕嗣教育長が答えた。ある市立小の児童は今年度、これも大幅に増している。市教委はアレルギーの原因2152人で、卵と牛乳が最も多かった。同日「困る卵と牛乳を避けたい児童生徒は02年度比606人増」の市議会一般質問で、山口「アレルギーを避けたい児童生徒は、食べられずに給食を拒否する子どもは今年度、小学生370人、中学生34人にのぼるという。市内4ヶ所の給食センターではアレルギーに対応した給食の提供を検討しており、吉田市長は9日の日の議会で、みんなが給食に頼みたいという環境づくりに取り組みしたいと意欲を示した。